

1. 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画

全学共通教育センター

本学では、伝統とする全人教育のプログラムを基礎として、豊かな人間性と幅広い教養、国際感覚と生活感覚を陶冶する場を学生に与え、「世の光」となるべく社会力を身につけた人材を育成するとともに、次代を担う子どもたちの教育に熱意と情愛、専門性、実践力をもってその使命を果たそうとする教育者の育成を目指している。また、附属小学校・中学校・高等学校・昭和ボストン及び本学周辺地域の学校、児童福祉施設、教育委員会等の行政、企業と連携して子どもと向き合う体験型プログラムを形成し、子どもや社会の変化に的確に対応できる高い使命感と教育愛、実践的指導力を備えた教員の養成を目指している。

本学の教員養成課程が志向する教員モデルは次の二つを基本としている。

- ・ 人心を優しく受容し、礼節をもって人心に寄り添い、自他を隔てぬ博愛と理解と調和が示す気品を身につけていること。
- ・ 人間（人格）を対象とする職業に必要な人間・社会に関する科学的な知識の裏づけをもち成長過程にある人格に関わるうえで不可欠な寛容と忍耐を旨として、使命感をもっていること。

【中高教職課程の目標及び目標を達成するための計画】

中高教職課程では、人文科学と社会科学の現代的教養を土台にして、思考力、判断力、表現力、ならびに創造力に長けた中・高等学校の教員を養成する。

カリキュラム・ポリシー

1. ケーススタディにおける他者との粘り強い対話を通じて、学校教育の現実やあり方を複眼的かつ具体的に思考・判断する力を養成する。
2. 教材研究に基づいた単元／授業計画の作成を中心とする共創型デザインワークを通じて、変化の激しい現代社会を生き抜いていくために不可欠な資質・能力を育む学校カリキュラムや授業のあり方を構想する力を養成する。
3. ロールプレイや模擬授業による表現・実践活動を通じて、思想と理論に裏づけられた様々な教育スキル（指導スキルやコミュニケーションスキルなど）を、文脈に応じて適切に活用できる力を養成する。

日本語日本文学科

〔中学校教諭一種（国語）、高等学校教諭一種（国語・書道）〕

（1）学科の教員養成の目標

学科の設置目的は「日本の言語文化について、広い視野と豊かな教養を培い、文化的創造及び社会の発展に寄与し得る人材の育成」であり、社会の発展に寄与するあり方の一つとして「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を有した国語科教員の育成が位置づけられる。ことばや文化への深い理解をもち、次世代に継承できる人材、論理的で柔軟な思考が展開できる人材としての教員を養成することを目標としている。

（2）学科の教員養成の計画

日本の言語・文学を段階的に修得していくカリキュラム構成をとり、古代から現代までの文学及び言語をバランスよく学修できるよう科目配置している。言語コースまたは文学コースの選択により専門知識を深化させ、教員としての幅広い知見をもつために、コース共通科目の履修も推奨し、卒業論文を中心とする専門分野のみにとどまらない教養を備えさせるよう指導している。また、時代に合わせ、国際的な視野も培うべく、日本語教育科目やグローバルな視点に立つ文化論科目の履修も推奨している。書道科では、書芸の豊かさを伝え、書写の技術を教育できるよう体系的な教職課程を編成し、

4年間かけて段階的に技術を向上させられる教育課程を編成している。学期初めの教職課程向けガイダンスや年度ごとに成績を確認し、学習状況を把握するとともに、現任教員との座談会や教育実習直前講座等、多様な学習機会を提供し、教職に対し高い理想と確固たる自覚をもち、研鑽を怠らずに学び続けることのできる学習環境を調えている。

歴史文化学科

〔中学校教諭一種（社会）、高等学校教諭一種（地理歴史）〕

（1）学科の教員養成の目標

学科では、歴史と文化、日本と世界を横断した学びを展開している。具体的には、日本近世史、日本近代史、東洋史、西洋史、人文地理学、アーカイブズ学、日本美術史、西洋美術史、民俗学・芸能史、日本考古学、文化財保存学の諸分野にわたり、段階的かつ体系的な教育を通じて、歴史と文化、日本と世界に対する広い視野と高い識見を備えた人材の育成を目的としている。

国際化や情報化の進展が著しい現代社会においては、自国と世界の歴史的過程や文化・生活の地域的特色について、深い理解と認識をもつことが国際社会で民主的かつ平和的を希求する社会人としての根本的な資質となる。また、現在の急速な社会の変化へ対処しうる幅広い知識とグローバルな国際感覚、さらに人間的な力も必要である。そうした次世代の人材を育成することのできる教員としては、専門的知識はもちろんのこと、社会人としての幅広い知識と深い教養を備えていることが必要であり、本学科ではそうした資質を備えた教員の養成を目標としている。

本学で実施している豊かな人間性とバランスのとれた生活感覚等を養う全人教育プログラムに関して、本学科の専門教育カリキュラムにおいては、日本と世界の地理や歴史、文化に関する科目を幅広く開講し、見て、触れて、歩いて、学ぶことをモットーとする体験的カリキュラムも多く展開している。こうしたカリキュラムを通して、有形・無形の歴史的・文化的所産を史資料として学ぶ中から、自ら課題を見出し、その解析方法を思考し、具体的な目標を設定し、直面する様々な課題解決を目指した情報収集に努め、多角的・理論的な思考と分析を継続して取り組む人材の養成を目標としている。また、国際的な見識を育成するため、学科独自のグローバル科目やテンプル大学との合同プログラムも開設している。加えて、本学ポストン校への短期留学や諸外国への留学や研修も推奨し、関連科目を専門科目の中に配置している。本学の全人教育プログラムと学科の専門教育とを併せて運営することで目標とする教員の養成の実現を図っている。

（2）学科の教員養成の計画

教職課程科目は、本学科における日本と世界の地理や歴史、文化に関して幅広く体系的に構成する専門教育科目群（卒業要件単位）の中に位置づけられる。専門教育科目群には、基礎教育のうえに一般の教養を高め、専門的な技能を習熟させる教育課程の内容と密接に関連するカリキュラムが用意されている。教員養成を、本学科の専門教育とキャリア教育とを連動させることにより、学生が学修した専門能力を活かす将来を見据え、教職に就く目標に向かって研鑽することによって、次世代の教育に携わる優秀な人材の輩出に繋がる。

本学科の教育方針は、国内外の地理・歴史・文化に関する幅広い視野からの調査研究を通じて、国際社会の一員としての自覚をもち、他者の価値観を尊重できる人材の育成にあり、指導教員は各分野からの研究指導の深化を図っている。また、学校教員としての実践的教育手法の指導を強化するために非常勤教員とも連携して学生の教育指導に取り組み、学生が将来、実社会において確固たる基盤のうえに責務を担い、活躍できるよう教員相互の意思に基づく協働体制を構築している。

本学科は、専門知識と技能を伸ばすための実地調査やグループワークなどの学習活動を充実させ、問題解決や疑問解明のための能動的で地道な取り組み姿勢と、他者と協働できる人間形成を重視した指導を段階的に編成するカリキュラムを通じて遂行している。学生は、課題を設定し、諸説・見解を踏まえ史資料の収集・取材・整理・分析、多面的な検証から考察し、結論を導き、発表するまでの一連の調査研究の体験から、地理・歴史・文化を研究する意義をより深く理解し、健全な批判力・思考力・判断力・表現力が養われる。

上記の教育カリキュラムは、課題解決に必要な能力を育み、多様な史資料を適切に活用しながら特

色ある教育活動を展開できる資質を備えた教育者の育成を目指すものである。教員養成を通じて、本学科が目指す次世代の教育に携わる優秀な人材の輩出を可能とする。

英語コミュニケーション学科

〔中学校教諭一種外国語(英語)・高等学校教諭一種外国語(英語)〕

(1) 学科の教員養成の目標

近年のグローバル化の動きに対応して、中学生・高校生の時期から外国語(英語)の基礎力を修得し、さらに異文化コミュニケーション能力を身につけることは国際社会で活躍する人材育成のうえで重要である。インバウンドに限らずアウトバウンドにおいても、正確な英語を駆使し、国内外の様々な背景をもつ人々との交流を活発化させる必要がある現代社会において、日本の将来に貢献できる人材育成の助けとなる英語科教員の養成を行っている。

(2) 学科の教員養成の計画

1・2年次で英語のスキル科目を集中的に履修することで、英語の基礎力を強化し、同時期に、文化・言語概論及び国際コミュニケーション概論を履修し、日本人のみならず外国人との交流に必要な基礎知識を獲得させている。2年次後期は「昭和ボストンプログラム」への参加を必須とし、ボストンに留学することで、異文化コミュニケーションを始め、様々なカリキュラムを体系的に学ぶ。そこで、日本の伝統文化等を振り返り、外国の文化への理解を深める。3・4年次には教科専門科目を中心に履修し、「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」等の専門知識を吸収することにより、英語科教員としての資質の向上に努め、指導力、英語力、専門知識、コミュニケーション能力を修得する。

心理学科

〔高等学校教諭一種(公民)〕

(1) 学科の教員養成の目標

学科では、本学が目指す教員養成の目標を踏まえ、さらに当学科の特長を活かした教員養成を行っている。当学科では、社会のしくみやシステムならびにその文化的背景を理解するとともに、社会システムの中での個人の行動のあり方や生涯にわたる人間の多様な発達の過程に関する心理学の体系的な知識を有する教員の養成を目指している。当学科において、人間行動の一般的傾向性と個人の多様性についての学びを積み重ねることにより、教員としての活動内容への深く多面的な理解が促されるだけでなく、将来教員となったときに、生徒が社会の課題と個人の課題との相克と調和について考察する際に、生徒自身の個性と人間としての普遍性の両面から思索できるよう支援する素養が涵養されることが期待できる。また、当学科の教育課程の中で人間を対象とした様々な調査データや実験データを収集・分析する科学的方法論を学び、またそれらを駆使した研究実践に参加した経験は、社会調査等を活用した生徒の主体的な学習活動の指導において大いに貢献する。

(2) 学科の教員養成の計画

学科では、1、2年次において人間社会学部の共通科目である「人間社会学総論」の各科目において現代社会における諸課題を広く学び関心を高めると同時に、「心理学概論」「発達心理学」「社会心理学概論」「臨床心理学概論」などの概論科目を必修科目として学び、社会での個人の行動と多様な個性の形成過程を体系的に理解する基礎を形成する。その後、各領域の専門性を深める各論科目を選択して、人間行動の一般的傾向と個人の多様性に関する理解を深める。また、研究法や演習に関する科目によって、社会及び個人に対する様々な実証的なアプローチに関する知識と技能を習得し、卒業論文作成の過程においてそれらの能力を有機的に活用して現代社会の問題にアプローチする能力を養成する。これはすべて心理学を学問的背景とする教員養成に直結する学びである。これらに加え、「心理学関連科目」において、政治・経済・法律などの社会システムとその現代的課題、社会と個人

の倫理的課題に関する現代に至る思索の足跡についての認識を深めることにより、教員としてバランスの取れた力量形成につなげている。

また、計画のより質の高い実現に向けた具体的な活動として、例えば、成績評価に関する担当教員間での共通理解を共有するため、担当教員間での話し合いは積極的にいき、成績評価の平準化も継続して行っている。成績評価に当たっては、シラバスに授業到達目標や評価基準、評価の方法、配点基準を明記し、それに基づいたバランスの良い成績評価を行っている。学生自身も、教員になるための目標の達成状況（学修成果）を理解するために「教職履修カルテ」を活用し、4年次には「教職実践演習」において振り返りにも用いている。さらに、本学科教員養成の計画は、継続的に見直しを行い改善に努めている。2023年度からスタートした「キャリア準備履修プログラム」は学生が入学時からキャリア目標を意識し、自身に合ったキャリアプランの形成とキャリアの実現に向けて努力する態度を醸成することを目的としたプログラムである。

現代教養学科

〔高等学校教諭一種(公民)〕

(1) 学科の教員養成の目標

現代は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す「知識基盤社会」の時代である。このような社会においては、人間の尊厳と人権を尊重し、豊かな人間性を身につけつつ、社会的事象に関心をもって多面的・多角的な視点から考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることのできる人材の育成が重要である。

上記の観点から、本学科が目標とするのは、自律、自立、自発を促す充実した「リベラル・アーツ」教育であり、社会の変化・多様化に応じて、女性の広い視野、柔軟な思考、偏りのない判断力をもって、社会に積極的に関わっていける人材の育成である。本学科では、そうした人材の一つのモデルとして、人間の尊厳と人権の尊重、豊かな人間性を土台に社会と地域に貢献し、現代社会において必要な教養と専門的知識を活かして高校生の教育にあたる教員を養成する。

(2) 学科の教員養成の計画

現代教養学科の教育理念は、社会科学、人文科学、自然科学の現代的教養を土台に、社会をみる視座を有し、積極的に社会参加できる人を育成するために、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力をもつ学生を育てることにある。こうした本学科での学びを現代社会に還元するために、後進の育成としての教員養成を行う。

変容する現代社会について理解を深め、貢献できる教員を養成するために、公民科に係る高度な専門性と実践的な指導力が身につけられるよう、以下の科目を開設し、教育職員免許法に基づき高等学校一種免許を取得するために必要な単位数を履修する。

教職課程の教科専門科目の区分「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」「社会学、経済学（国際経済を含む。）」「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の多くは、学科において社会構想領域、メディア創造領域、多文化共生領域の3領域で展開されており、これらの科目を履修することにより横断的な視点から現代的諸問題を総合的に把握し、対応する思考力を身につけ応用できる力を修得する。

健康デザイン学科

〔中学校教諭一種（家庭・保健体育）高等学校教諭一種(課程・保健体育)〕

(1) 学科の教員養成の目標

本学科では教育課程全体を通じて、科学的知識の体系的な理解と実践的スキルを身につける。その知識とスキルに基づいて自ら課題を発見し、情報を収集して解決に向けた働きかけ、周囲の人々と協働し、また分かりやすく情報を伝えることができる能力を有する教員を養成する。その結果としてグローバ

ル化が進展する現代社会において、人々の総合的な健康の増進と生活の質の向上に貢献できる教科「家庭」及び「保健体育」の教員を養成することを目指す。

中学校の「家庭」科教員としては、健康と生活に関わる基本的な事項をわかりやすく伝える能力を有した教員を養成することを目指す。高等学校の「家庭」科教員としては、健康と生活に関する専門的な内容を含みながらそれらを実生活の中で活かせるように伝える能力を有した教員を養成することを目指す。

中学校の「保健体育」科教員としては、健康と運動に関する基本的な事項をわかりやすく伝える能力を有した教員を養成することを目指す。高等学校の「保健体育」科教員としては、健康と運動に関する専門的な内容を含みながらそれらを実生活の中で活かせるように伝える能力を有した教員を養成することを目指す。

(2) 学科の教員養成の計画

「家庭」及び「保健体育」の教員の養成を継続する。「家庭」は栄養士、「保健体育」は健康運動指導士と健康デザイン学科でより効果的となるようなカリキュラムを体系的に編成している。

管理栄養学科

〔栄養教諭一種〕

(1) 学科の教員養成の目標

栄養教諭一種の課程では、管理栄養士養成課程での学修を土台にして、食・栄養に関する高い専門知識と栄養指導などの実践的力量をもった栄養教諭の教員を養成する。

子どもの成長発達に合わせた栄養や食育の知識と技能を身につけ、「食に関するスペシャリスト」である栄養教諭として保育所、こども園、小中学校において学校給食の運営、計画、立案及び教育することができる人材を育成する。

また、グローバルに活躍する管理栄養士に求められる英語力を身につけ、食事指導や栄養改善を通して国際的な課題に貢献できる人材を育成する。

(2) 学科の教員養成の計画

実務家教員が栄養に係る教育に関する科目である「学校栄養教育論Ⅰ・Ⅱ」を担当し、専門的かつ実践的な授業内容の充実を図る。

また、地域と協働した食育の実施や見学、教育実習実施校での学生ボランティアとしての関わりを推進する。

初等教育学科

〔幼稚園教諭一種・小学校教諭一種〕

【幼小教職課程の目標及び目標を達成するための計画】

カリキュラム・ポリシー

初等教育学科では、学位授与方針に揚げる能力を修得させるために、一般教養科目、外国語科目、文化講座に加えて専門教育科目を体系的に編成する。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定める。

〔教育内容〕

1. 一般教養科目では、4年間の学びの指針となる科目（「実践倫理」「キャリアデザイン入門」）や将来の学びの基盤となる科目（「日本語基礎」及び「データサイエンス入門」）を置き、さらに社会・文化・自然に対する理解を深め、多角的な視点を養う科目群を編成する。
2. 外国語科目では、英語の他主要外国語及び日本語（留学生用）を習熟度別に配置する。
3. 幅広い教養を身につけ、学際的な視点を養うために、学部の共通科目を配置する。
4. 人間形成の原理と基本的な教育理論、現代社会における教育課題について学び、教育者・保育者

に不可欠な教育教養を身につける科目として、教育教養科目群を学科の共通科目に配置する。

5. 学生一人ひとりの基礎的な知識や技能を定着させ、教育・保育現場での実践力を養成するための科目として、教育技能・教育臨床科目群を学科の共通科目に配置する。
6. 情報化社会において必要とされる情報機器の基礎知識と利用法について学ぶ科目、教育現場でのICT化に対応できる力を養う科目として、「情報機器の操作」「教育の方法と技術」及び各教科・領域の「教育法」「指導法」を配置する。
7. 1年次～4年次にかけて「教育学基礎演習Ⅰ」「教育学基礎演習Ⅱ」「教育学演習Ⅰ」「教育学演習Ⅱ」を連続的に配置し、段階的に教育・保育に関する課題探究力を育成する。
8. 各コースが開設する専門教育科目は、教育者・保育者に求められる専門知識を養う講義科目と、実践や実技を学ぶ演習・実習科目で構成され、小学校・幼稚園の教員免許状及び保育士資格の取得に必要な科目を系統的に修得できるよう配置する。

＜児童教育コース＞

- ・ 教育の理念ならびに歴史や思想、子どもを取り巻く社会環境、児童・幼児の心身の発達及び学習の過程、特別な支援を要する児童・幼児の理解など、教育の基礎的理解に関する講義科目を1年次～3年次にかけて順次に配置する。
- ・ 小学校教諭となるうえで必要となる国語・社会・算数・理科の基礎的な知識と技能、及びその活用について学ぶ「教育基礎」を初年次教育として配置する。
- ・ 各教科及び指導法に関する講義科目と演習科目を2年次より体系的に配置する。
- ・ 道徳や総合的な学習の時間、特別活動の指導法及び、生徒指導・教育相談・キャリア教育の理論と方法などに関する講義科目と演習科目を2年次より体系的に配置する。
- ・ 教育現場での取り組みや教員の職務について理解し、児童や幼児との関わり方、現場における対人関係・コミュニケーションスキルを学び、授業実践力と生徒指導力を養うとともに、教職に対する熱意と適格性を把握するため、教育実習ならびに現場体験を行う科目を配置する。

＜幼児教育コース＞

- ・ 教育・保育の理念ならびに歴史や思想、子どもを取り巻く社会環境、乳幼児の心身の発達及び学習の過程、特別な支援を要する乳幼児の理解など、教育・保育の基礎理論に関する講義科目を1年次～3年次にかけて順次配置する。
 - ・ 幼稚園教諭・保育士となるうえで必要となる、音楽・造形・身体・言語表現に関する知識や技能、及びその活用について学ぶ科目を初年次教育として配置する。
 - ・ 保育士資格の取得に必要な必修科目を1年次～2年次にかけて、選択科目を3年次に順次配置する。
 - ・ 領域及び保育内容の指導法に関する講義科目と演習科目を2年次より体系的に配置する。
 - ・ 幼児理解や保育・教育相談支援の理論と方法などに関する講義科目と演習科目を2年次より体系的に配置する。
 - ・ 教育・保育現場での取り組みや教員・保育士の職務について理解し、乳幼児との関わり方、現場における対人関係・コミュニケーションスキルを学び、保育実践力を養うとともに、教職に対する熱意と適格性を把握するため、教育・保育実習ならびに豊富な現場体験を行う科目を配置する。
9. 基礎的な英語力やコミュニケーションスキルを養う科目に加え、小学校や幼稚園・保育所・こども園での英語活動に関わる基礎知識と技術をバランスよく身につける講義科目と演習科目を1年次より順次配置する。
 10. 国際感覚を育み、広い視野を身につけるため、昭和ボストンでの短期・長期留学研修プログラムを開設する。
 11. 講義・演習を通して修得した理論や知識及び技術、企画・運営力、コミュニケーション力などの実践の場としてプロジェクト・ベースト・ラーニングを配置し、教育現場での学習指導体験を行い、その育成の実態を学び、教職の重要性や意義を修得する。
 12. 専門教育科目を中心とする教育内容の成果として、「卒業研究」を配置する。
 13. キャリア教育を推進するため、キャリア・コア科目とインターンシップを開設する。

14. 自己確立や創造力の育成、多様な文化の理解を深めるため、国内外の研究者や文化人、芸術家による講演やコンサートを「文化講座」として開講し、毎年所定回数の受講を必修とする。
15. 自主性や協調性、奉仕の精神を養うため、学科単位で1年次～3年次において一定期間の宿泊研修への参加を必修とする。
16. 昭和ポストンでの各種留学プログラムをはじめ、様々な協定校留学・海外研修プログラムを開設し、国際的に適用する人材を育成する。

[教育方法]

17. 各科目の期中において、課題、レポート、試験等を課し、フィードバックに努める。
18. コミュニケーション力や人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力をはじめとする汎用的能力を育成するため、能動的学修（アクティブ・ラーニング）を積極的に取り入れる。
19. 教職に対する使命感や責任感を養うために、授業や文化講座のレポート、学寮研修や教育現場体験での振り返りなどをもとに、ポートフォリオ「善き教師への道」を1年次～4年次にかけて作成する。

[学修成果の評価]

20. 学位授与の方針で掲げた能力到達確認は、卒業要件充足の把握によって行う。
21. 学生の評価は、①各科目の成績評価、②卒業研究に対する評価によって行う。